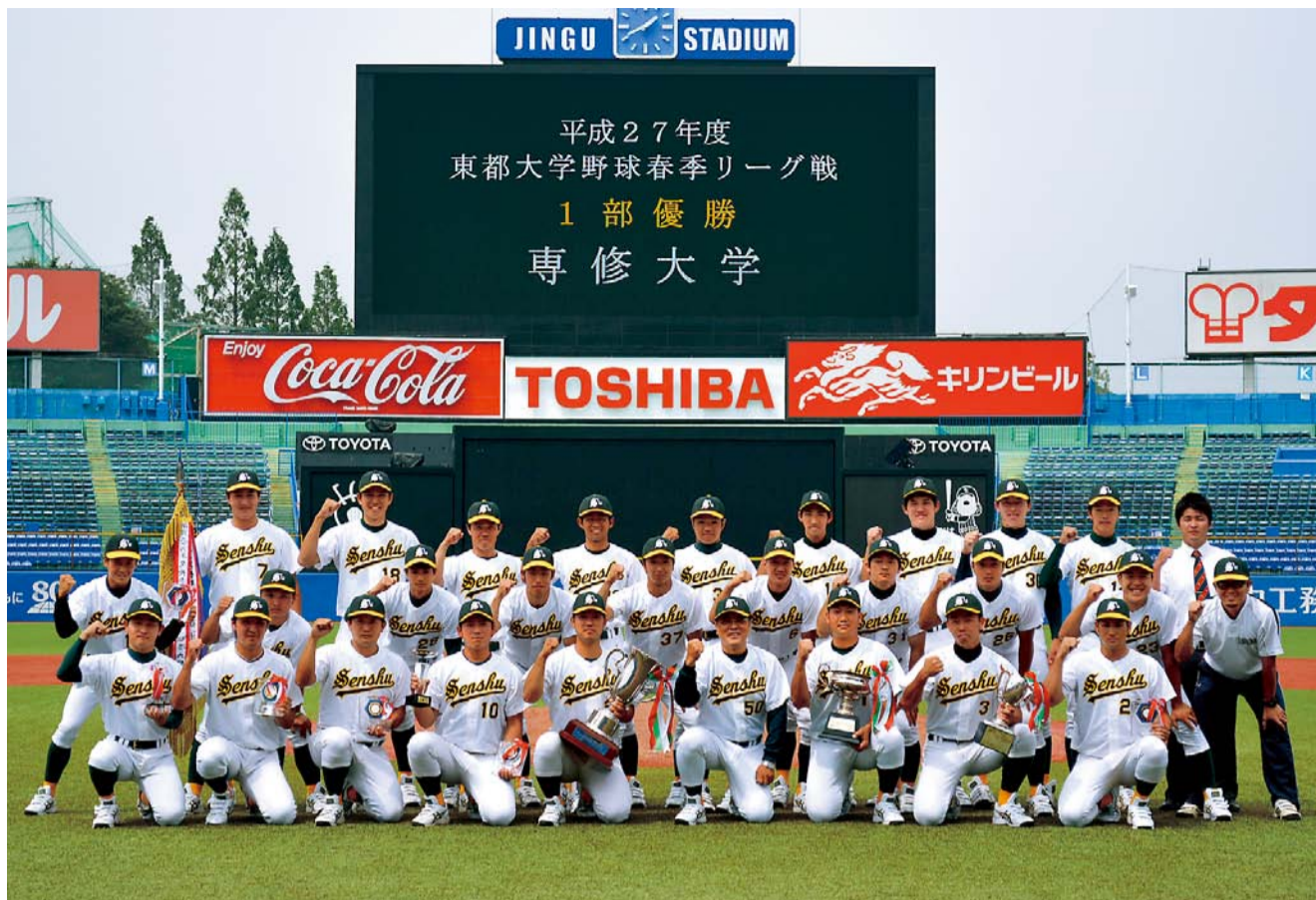


東都大学野球春季リーグ戦V

一戦必勝貫く



▲ 優勝し、ガッツポーズの野球部員たち=5月28日、神宮球場

神宮球場の舞台で専大野球部が躍動。東都大学野球春季リーグ戦で26年ぶり32回目の優勝(8勝2敗、勝ち点4)を果たした。東都最多優勝回数を誇る専大だが、1部と2部を行き来する険しい道のりが続いていた。

しかし、今年は一と味違った。緊迫した投手戦となった開幕戦(中大1回戦)を、延長の末サヨナラ勝ちし、勢いに乗ると続く試合も接戦を競り勝ち6連勝。ところが試練が訪れる。勢いそのままに臨んだ國學大戦では、まさかの連敗。これにより単独首位の座から陥落した(本紙4・5月号既報)。

MVPに渡辺

大野は最優秀投手

最高殊勲選手(MVP)を渡辺和哉(経営4・P)を渡辺和哉(経営4・捕手)、濱田(三塁手)、文星芸大(附高)が、最優秀投手を大野が受賞した。また、ベストナインには大野(投手)、時本亮

(経営4・大垣日大高II)を渡辺和哉(経営4・捕手)、濱田(三塁手)、重野(外野手)、渡辺(指名打者)の5人が選ばれた。

渡辺は「MVP受賞は素直にうれしい。一つ一つ戦ってきた結果が優勝につながった。大野は「投手として最高の賞をいただき光栄に思う。中大戦や拓大戦など試合を通じて精神的に強くなれた」と語った。

優勝に向けて負けられない戦いとなった5月19日の拓大戦。先制されるものの、2回に重野雄一郎(経営4・専大松戸)の適時打で追いつく。4回にはヒットと四球で一挙4得点と試合を決定づけた。投げては、2回途中から登板の大野

亨輔(商4・星稜高)が6回1/3を投げ、8奪三振と圧巻の投球を見せた。そして、全員が「勝つ気」で臨んだ20日の優勝決定戦。初回から専大打線が魅せる。先頭打者の重野がいきなり2塁打を放つと2死3塁のチャンス。4番・濱田竜之祐(商4・鹿児島実高)の適時打で決め、先制点を奪った。その後は好機を生かせなかったが、リーグ戦を投げ抜いてきた堀田竜也(経営2・常葉菊川学園高)、大野、高橋礼(商2・専大松戸高)の継投で無失点に抑え、歓喜の瞬間を迎えた。

2部での戦い、入れ替え戦と厳しい試合を勝ち抜き、2部で生まれた一戦への執着心。周囲が何連勝と盛り上がる中でも変わらず貫き続けた「一戦必勝」の精神で全員が同じ方向を向き、戦い抜いた。

三嶋里衣・経営2、撮影：齊藤麻莉奈)

26年ぶり優勝を伝える専スポ号外



▲ 優勝が決まった直後に500部を発行

フェンシング・関東学生リーグ戦

女子が3種目総合V



▲ 左から安部夏帆(商3)、川村理紗(商4)、高橋主将、菊池小巻(商1)

フェンシングの関東学生リーグ戦が4月30日から5月14日まで、駒沢オリンピック公園体育館で行われ、専大女子はフル

1レ団体で優勝、サブフル団体で2位となり、フル対戦。序盤はリードを許すも、第4セットで逆転する。最後は拮抗した状態となったが、25

フルレの第2戦では法大と対戦。序盤はリードを許すも、第4セットで逆転する。最後は拮抗した状態となったが、25

24で接戦を制した。その後は危ない試合展開をみせ、確実に勝利を重ねた。

(新井健太郎・文3)

卓球・春季関東学生リーグ戦

女子 通算41回目の優勝



春季関東学生卓球リーグ戦(5月13〜17日、所沢市民体育館)で女子が6勝1敗で通算41回目の優勝、リーグ最多優勝記録を更新した。昨年に続き2年連続で春季を制したII写真。

個人では安藤みなみ(商1・慶誠高)が殊勲賞、優秀選手賞、最優秀新人賞、鈴木李茄(商3・青森山田高)とのコンビで最優秀ペア賞とタイトルを総なめにした。阿部勝幸監督が「専大、東京富士大、早大、中大は実力が一緒」と語ったように、4戦を終え

た時点で4チームが全勝。専大は5戦目で東京富士大に惜敗したが、6戦目で早大を破った。最終戦は中大と対戦。1勝1敗から、鈴木・安藤ペアがストレート勝ち。続くシングルスで庄司有貴(文3・青森山田高)、安藤が勝利し、4-2で中大を下した。早大に敗れた東京富士大を得失セット差で上回った。

安藤は「試合のたびに調子が良くなっている。ペアでは鈴木先輩が引っ張ってくれて心強かった。この経験を生かして気を抜かず練習していきたい」と語った。